

## 「連合2019平和行動in長崎」派遣団報告

# 語り継ぐ戦争の実相と運動の継続で核兵器廃絶と恒久平和を実現しよう！ ～平和ナガサキ集会に、全国から3370名が参加～



「平和集会」で挨拶する連合本部神津会長

代表して連合本部神津会長は「人間は愚かな側面をもっており、核兵器という強い力があれば必ず使ってしまう。我々は世界中に向



平和集會会場前の派遣団の皆さん

けて核兵器の廃絶を訴え、そして時代を超えて、その愚かさを伝えていかなければならない」と挨拶をした。集会後には2020年のNPT再検討会議



「連合2019平和ナガサキ集会」の様子

に向けたシンポジウムが行われ、核兵器をめぐる最近の国際情勢の報告と被爆者の訴えとして被爆体験講和者の奥村アヤ子さんから、8月9日の原爆投下時の体験を涙ながらに私たちに伝えて頂いた。

翌、8月9日、11時2分には長崎は祈りの日を迎えた。式典では、長崎平和宣言の中で、「NPTは来年で成立から50年を迎え、核兵器を無くすことを約束し、その義務を負ったこの条約の意味をすべての核保有国はもう一度思い出し削減の道筋を世界に示すことを要求する。日本政府には一刻も早く核兵器禁止条約に署名・批准をし、『戦争をしない』という決意を込めた日本国憲法の平和の理念の堅持と、それを世界に広げるリーダーシップを発揮することを求める。」と田上長崎市長がアピールし、会場は大きな拍手に包まれた。連合福島視察研修では、平和公園や原爆資料館の見学などを通じて核兵器の脅威、平和の尊さを学習し、参加者全員で「平和の誓い」を確認し8月10日に福島への帰路へたった。



平和集會に参加した派遣団の皆さん

地にいき、体験を聞くことで平和に対する思いが強くなった」等の所見があった。

参加者からは「被爆者体験講和者からの『周りの人の無償の助けで今の自分がある。そして悲しさ、苦しさを、次世を担う子供たちに与えてはならないことを願い核兵器廃絶を訴えている』という言葉がとても胸に残った」、「実際に被爆



長崎原爆資料館の前にて

(記：副事務局長 阿部 薫)